第81回麻布獣医学会　一般演題4

山形市周辺におけるFeLV感染状況と未発症のFeLV抗原陽性ネコに対するインターフェロンの効果

小野寺政一，結城　若子，勝見　　淳，佐藤　慎一，山下洋治郎，勝見　　晟

山形県くみあい畜産研修センターくみあい動物病院

[はじめに]

ネコ白血病ウイルス（FeLV）感染症は，ウイルスに感染後数ヶ月から数年の無症状の期間を経，発症すると死亡率は極めて高い。現在のところ発症ネコに対する救命的な治療法はないことや本感染症が世界的に広がっていることから臨床上きわめて重要な感染症である。しかしながら，山形市周辺における感染状況の報告は少ない。一方，近年遺伝子組換え型ネコインターフェロンω（rFeIFN）がFeLV感染症に延命効果のあることが報告され，FeLV感染症に対する有効な治療薬として注目されている。

今回演者らは，山形市周辺におけるFeLV感染状況を調査するとともに，まだ症状を示していないFeLV抗原陽性ネコに対しrFeIFNを応用し，有効であるかどうか検討した。

[材料および方法]

FeLV感染状況を知る目的で，当院に来院したネコのうち205例（2ヶ月～16歳）から採血を行い，血漿を分離後直ちにFeLV抗原検出用キットを用いて検査を行った。またFeLV抗原陽性ネコのうち，臨床上異常所見が認められないかあるいはFeLV感染症以外の疾患で，飼い主の同意が得られた7例（4ヶ月～8歳）に対し，rFeIFN（インターキャット，東レ）を投与した。rFeIFNは，2.5～6 MU／頭，SC，SID，4～5日間投与した。またこの内3例は，初回rFeIFN投与開始後2週間目に，同様の処置を繰り返して行った。いずれの個体も最終rFeIFN投与後4～6週間目に血漿中の抗原検査を行い，陽性率の変化を検討した。

[結　果]

FeLV抗原陽性率は，全体で23.6％であった。健康状態別の内訳では，健康なネコの6.5％，病気のネコの37.2％で抗原が確認された。病気のネコの内，長期にわたる食欲不振，貧血，体重減少などを示し，臨床的にFeLV感染が疑われたネコの抗原陽性率は72％であった。また，性別による抗原陽性率は，未去勢が最も高い数値を示したが，有意差は認められなかった。年齢別では，2歳の抗原陽性率が最も高く，3ヶ月以内では確認されなかった。

rFeIFN投与後のFeLV抗原陽性率は28.6％と低下した。また，抗原陰転率は71.4％であった。rFeIFN投与時の健康状態，投与回数，投与量による一定の傾向は認められなかった。

[考　察]

山形市周辺におけるFeLV感染は6～20％であること，未発症のFeLV抗原陽性ネコに対するrFeIFNの投与は抗原陰性化に有効であること，ならびにFeLV抗原検査を行うことは重要であると推察された。